

# 疑似血管ユニット

特許5830325「疑似血管ユニット」(優先日 2011/9/21:(株)シンデンとの共願)



## 発明の背景

末梢静脈注射は現在においても、特に看護学生にとって最も習得が難しい看護技術とされています。練習は一人でできるものではなく、また、注射技術は患者の苦痛回避のためにも十分な練習が必要です。通常、医師や看護師が採血や注射などの刺針技術を習得するためには、疑似腕部が利用されています。従来の疑似腕部は、溝状の間隙を設けた人の硬質の腕型モデルにチューブ状の疑似血管をはめ込み、ゴム製の疑似皮膚層で覆うことによって構成されるか、人の腕に装着可能な支持層に肉組織を模擬した複数の分割片を設け、分割片の間に疑似血管を配置することによって構成されているのが通常です(皮内注射シミュレータや注射練習用パットなどと呼ばれています)。

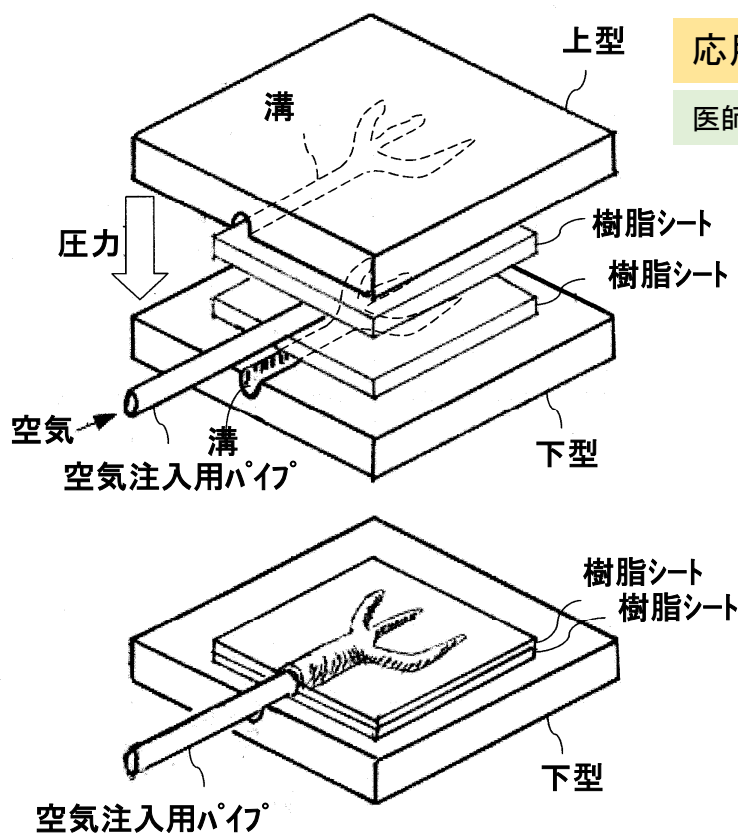
## 発明の概要

従来の疑似腕部では、血管チューブを取り付けるための溝の位置や分割片の形状を任意に変更することができないため、実際には多様な特徴を有する血管を適切に模擬することができないという課題があります。更に、練習の度に注射跡が血管チューブを覆う疑似皮膚層が増えていくため、適切な練習が行えないなどの課題もあります。

本発明は、型に溝を掘ることで、練習に使用する形状、サイズ等の特徴備えた疑似血管を作ることができ、これまで任意に形状を変更できなかった疑似血管パターンや直径等を自由に変更することで、多様な血管に対応するための練習を可能とするための疑似血管ユニット製造方法です。

## 応用分野

医師、看護師の採血、注射等の刺針技術練習用血管



本発明の製造過程と製造物



お問い合わせ先

宇都宮大学 地域共生研究開発センター TEL: 028-689-6316 E-mail: chiiki@miyajm.utsunomiya-u.ac.jp